

防災ニュース 第 5号



あなたは どうする？ (5)

～ 大地震シミュレーション ～

皆様こんにちは。本年6月19日15:08頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード5.4、最大震度6弱の地震が発生しました。この地方では昨年9月にもマグニチュード5.1、最大震度5弱の地震が発生したのをはじめ、その後も震度4クラスの地震が頻発していました。東京大学地震研究所の古村教授によれば、群発活動を懸念しており、今後も警戒が必要とのこと。

もし今、大地震が発生したら、あなたはどのように行動しますか？自分の身に置き換えて想像してみましょう。（出典：東京都発行「東京防災」）

【 助け合う 】

共助について

巨大地震などの大災害が起こったら、市民が総力を結集しなければ乗り切ることはできません。自分や家族だけが助かればいいということではなく、周りの人と協力し一人でも多くの人を助けること（共助）で被害を軽減することができます。

迷わず協力を頼む



倒れている人に声をかけて反応がなかった場合は、大声で「誰か来て下さい。人が倒れています！」と、近くの人に協力を依頼します。付近にAED（自動体外式除細動器）があれば、持ってきてもらうようお願いします。

助け合うための知恵

柱や梁などに挟まれた人を発見したら、周囲の人にも声をかけ協力して助けます。意識があるかどうか確認し、励ますことも重要。自動車に積んであるジャッキなども活用できる場合があります。

応急救護の必要性

大災害時は負傷者が多くなりますが、道路が通行困難になり、救急車の到着が遅れ救出活動が間に合わないことも考えられます。軽いケガなどの処置方法を身につけておきましょう。

【 在宅避難 】

在宅避難のすすめ

自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難しましょう。避難所では環境の変化などによって体調を崩す人もいます。事前に住宅の耐震化を実施し、食料や水など必要な物を日頃から備え、可能な限り在宅避難できる準備を整えておくことが大切です。



ガス・電気・水道の代替

ライフラインの代替品を備えておくと安心。ガスはカセットコンロ、電灯は乾電池で作動するヘッドランプを利用します。水は日頃からペットボトルなどの水を多めに準備し、近所の「給水拠点」の確認をしておきましょう。

食料品や日用品の備え

日頃から食料や日用品を多めに買い揃え、普段生活する中で消費し、消費した分を買い足すという日常備蓄なら、無理なく備蓄を続けることができます。



下水道の使用法

下水があふれ出すことがないか、自宅の排水設備が破損していないか等を確認。道路に下水があふれるなど下水道が使用できない場合には、備蓄している携帯用（非常用）トイレや行政が用意したトイレを利用します。

【 避難所 】 → 豊川市に置き換えて説明します。（豊川市HPより）

豊川市の避難場所・避難所

豊川市では、指定緊急避難場所（一時避難場所）及び指定避難所を指定していません。災害時に備えて、自宅や勤務先の近くの避難場所・避難所を確認しておきましょう。尚、住所地による指定はありません。

ご家族など身近な方とどこに避難するかを相談し、いざという時の避難経路も考えておきましょう。

指定緊急避難場所について

災害による危険が切迫した状況において、生命の安全を確保することを目的に緊急に避難する際の避難先です。学校や地区市民館、公園等、地震、高潮、津波、洪水、土砂災害などの種類別に指定されています。

指定避難所について

災害の危険がなくなった後に、自宅が被災した方や災害により帰宅困難になった方が一時的に滞在する施設で、93箇所指定しています。

風水害避難所について

風水害時は、浸水想定等を考慮して25箇所の避難所を優先して開設します。（豊川市の避難所等の詳細については、「豊川市 避難所」で検索して下さい。）

避難所の開設（参考例）

通常は施設の管理担当者が開錠し、開設準備が始まります。しかし発災時は、管理担当者自身が被災して到着が遅れる可能性もあり、避難者が開設を準備することもあり得ます。



以 上